

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

運命は、春に訪れる。

音楽界の先端を走る二人の音楽家が、
二大名曲に新たな光を当てる！

バイロイト音楽祭初の女性指揮者で
ウィーン・フィルなどと共演する気鋭
指揮 **オクサーナ・リーニフ**
Conductor OKSANA LYNIV

ザルツブルク音楽祭などで活躍する
ロシア生まれのピアノの大家

ピアノ **ルーカス・ゲニューシャス**
Piano LUKAS GENIUSAS

ブラームス：ピアノ協奏曲第1番 二短調 作品15
BRAHMS: Piano Concerto No. 1 in D minor, op. 15

ベートーヴェン：交響曲第5番 八短調 作品67 「運命」
BEETHOVEN: Symphony No. 5 in C minor, op. 67

読売日本交響楽団 第681回 名曲シリーズ

2025 4.16(水) 19:00 サントリーホール

YNSO Popular Series No. 681 Wed. 16 Apr. 2025, 19:00 Suntory Hall

S ¥8,800 A ¥7,700 B ¥6,600 C ¥5,000

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

新シーズンが開幕!

注目株リーニフが振るベートーヴェン「運命」。
大器ゲニューシャスがブラームスの傑作を弾く!

欧米で注目を浴びるウクライナ出身のオクサーナ・リーニフが、4月10日と13日に「東京・春・音楽祭」で指揮する読響とのブッチーニ「蝶々夫人」(演奏会形式)に続き、読響の《名曲シリーズ》の指揮台に上がります。パイロイト音楽祭初の女性指揮者となった後、メトロポリタン歌劇場などで活躍する彼女は、今年2月にウィーン・フィルへのデビューで成功を収めるなど、オペラとシンフォニーの両方で高い評価を得ている注目株です。今回、ベートーヴェンとブラームスの二つの名曲を振り、その実力を発揮するでしょう。

メインの曲は、クラシック音楽史に燦然と輝く傑作、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」。あの有名な“運命の動機”が畳み掛けるように展開する第1楽章に始まり、終楽章では喜びに満ちた勝利の音楽が輝かしく響きます。苦難を乗り越え歓喜に至るドラマは、いつまでも色あせない魅力を持ち、時代を超えて私たちの心を惹きつけて止みません。クラシック音楽界で新たな世界を切り拓くリーニフのタクトは、快活なリズムを鋭く描き出し、鮮烈なサウンドで興奮のクライマックスを築き上げるでしょう。

前半には、2023年10月に読響《定期》でヴァイグレ指揮によるヒンデミット作品で共演して絶賛されたモスクワ生まれのピアニスト、ルーカス・ゲニューシャスが再登場。ザルツブルク音楽祭など世界の檜舞台で活躍する大器がブラームスのピアノ協奏曲第1番の独奏を奏でます。従来のピアノ協奏曲の枠にとらわれず、交響曲のようなスケールを持っているブラームスの意欲作で、ピアノと管弦楽が丁々発止の共演を繰り広げるでしょう。ゲニューシャスは、技巧と表現力が絶妙にせめぎ合うこの難曲を、繊細かつ力強いタッチと抜群のテクニックで鮮やかに弾きこなすでしょう。

ピアノ ルーカス・ゲニューシャス

ずばぬけた才能を持ち、欧米で注目を浴びるピアノの大器。1990年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院の教授であった祖母ゴルノスターエワから影響を受ける。バックウアー国際コンクール優勝。2010年のショパン国際コンクールと2015年のチャイコフスキー国際コンクールで第2位。プレトニョフ、スラットキン、サロネン、ソヒエワらの指揮で、パリ管、フランス放送フィル、バーミンガム市響、フィラデルフィア管、モントリオール響などと共演。ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン音楽祭、ロッケンハウス音楽祭などに出演。レパートリーはベートーヴェンからヒンデミット、ジョン・アダムズまで幅広い。メロディア・レーベルなどからCDをリリースしており、ディアパソン・ドール賞などに輝いている。読響には23年10月以来、2度目の登場。

指揮 オクサーナ・リーニフ

ポーロニャ歌劇場の音楽監督を務め、欧米で注目を浴びる新鋭指揮者。2021年にパイロイト音楽祭初の女性指揮者となり、24年まで「さまよえるオランダ人」を指揮した。24年2月にはメトロポリタン歌劇場にデビューし成功を収め、25年2月にはザルツブルクの「モーツァルト週間」にてウィーン・フィルを振り、好評を博した。ミュンヘン・フィル、ウィーン響、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロンドン・フィル、バーミンガム市響などに客演するほか、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、パリ・オペラ座、ローマ歌劇場などで活躍。ウクライナ出身。これまでにウクライナ国立オペラ歌劇場の副首席指揮者、グラーツ歌劇場の首席指揮者などを歴任。今年4月には「東京・春・音楽祭」で読響と「蝶々夫人」で初共演する。

©Serhiy Horobets

読売日本交響楽団 第681回 名曲シリーズ

2025年4月16日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C ¥5,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyoku.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ <https://yomikyoku.or.jp/>